

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 一麻生鳥のさえずり公園一

第 38 号 2013 年 5 月 31 日発行 発行：麻生多摩美の森の会

発行責任者；間野 洋 編集者；木村 信夫

平成 25 年度を迎えて…活動の主な目標 会長 間野 洋

昨年度は当会設立以来 11 年目の活動を無事終了致しました。1 年を振り返ってみると、新しい企画が数多くある年でもありました。

列記すると、①念願の 10 周年記念誌の発行と、この報告会・交流会の開催（詳細は次頁）。②西生田中学校 1 年生 7 名の豆記者が当森を訪問してインタビュー内容を壁新聞にし、植樹祭&収穫祭で発表。③（公財）現代人形劇センター主催のラオス人形劇が「多摩美の森では」のテーマで上演。④西生田小学校に出向き、3 年生全員に当会の活動内容を説明。⑤多摩区菅地区特産の「のらぼう菜」を本格的に栽培。⑥多摩区のカリタス女子中学校 3 年生、190 名がクリスマス奉仕の一環として、多摩美緑地で緑の支援活動を行う、等々でした。

4 月 27 日、第 11 回通常総会を開催。25 年度の予算、活動計画などの議案がすべて承認され、今年度の活動がスタートしました。ほぼ同時期に若い男女 2 名の入会があり喜ばしいスタートとなりました。

今年度の活動目標は、昨年同様、地域とのコミュニティの充実と森の管理の充実です。今年度に予測、計画されている活動は以下の通りです。

○分科会活動

1) 森づくり分科会 ①下の畑のツツジ 11 本他の移植作業(多摩美町会の下水道工事で

幅 4 m の舗装道路および 2 m の仮設道路建設のため)。②北斜面の間伐、整備。③コナラの間伐材を利用してシイタケの栽培。

2) 畑の管理分科会 ①作付けは昨年同様サトイモ・ナタネ・レンゲ・のらぼう菜とする。のらぼう菜は昨年度に購入苗から育てた株より採種し、今年は自前の種の播種からのスタートとなる。

3) 施設・工作分科会 ①バイオトイレのドアの蝶番の不具合修理。②藤棚の整備 上部 4 本の梁の腐食が進んでいるので、遅くとも来年度までには取り替えが必要。道路公園センターとの打ち合わせのうえ。

4) 広報分科会 数年来の懸案であるホームページの開設。

○イベント関係

植樹祭・収穫祭、植物観察会、西生田小学校総合的学習への協力、星の観測会やプレーパークへの協力など例年通り継続する。

現時点ではとくに新たな企画、イベントはないが、11 月初旬に他区の市民健康の森の方々が当森を来訪します。多摩美緑地を説明ののち、昼食会を開催し交流を深める予定です。会費制になりますが、会員の皆さんの出席を歓迎します。

最後になりますが、今年度も行政、近隣町会のご支援と会員の皆様の協力をいただきながら、活動を続けて行きたいと思っております。

◆ 麻生多摩美の森の会 10 周年記念誌発行に寄せて 会長 間野 洋

当会は平成 23 年度末で設立から 10 年を経過するに当たり、活動の一つの区切りとして記念誌を発行したいと考えてきた。このため平成 22 年度末よりこの事業の助成金を得るための活動を開始した。

まず、神奈川新聞にこの趣旨および資料を提出。同時期に（財）都市緑化基金にメールで問い合わせなどを試みたが目的は達成できなかった。平成 23 年度後半に「かわさき市民公益活動助成金」制度があることを知り、これに応募することにした。この助成金の必要条件は、①市民が自発的、継続的に活動に参加している、②営利を目的としない(非営利)活動をしている、③不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与しており、広く市民に開かれた活動をしている、の 3 項目であった。

平成 24 年 2 月、助成金申請書を入手し、以後 3 回にわたって「かわさき市民活動センター」の担当者と相談、打ち合わせの後、3 月 7 日に申請書を提出した。4 月、5 月に第 1 次選考、第 2 次選考（公開プレゼンテーション）に出席。6 月 4 日、助成金交付決定通知書を受領した（事業費 467,000 円、このうち助成金額は 80% の 373,000 円であった）。

助成金交付決定を受けて、6 月 21 日に第 1 回編集会議を開催。以後翌年の 3 月 6 日まで 7 回の編集会議を行った。この間、行政サイドの寄稿者の決定、記念誌の構成内容、事業予算などの検討を行った。



10 周年記念誌発行報告会 勝田前会長挨拶

とくに 10 年誌の発行の目的は、現在、多摩美緑地（約 10 ha）の緑が残っているが、これは昭和 40 年前半より数度にわたって開発計画がなされたのに対して、その都度、近隣町会、地元有志の皆さん方の「緑の保全運動」によって守られてきた結果であり、この運動の歴史を記録として残し、また次世代に引き継いでいってもらいたいということであった（第 2 章の前段にこの運動を詳細に記載）。

第 7 回編集会議において、最終的に事業費 537,000 円、発行部数 280 部を決定し、3 月 8 日に発注した。3 月 17 日に完成本を受け取り（印刷所のご好意で 290 部受け取り）、順次必要配布先に配布した。

3 月 24 日（日）、記念誌発行の報告会・交流会を開催。出席者は行政関係 4 名、町会関係 6 名、連携各団体 27 名、個人 2 名、計 39 名であった。報告会は、当会の勝田前会長の挨拶に始まり、行政、町会からの祝辞をいただき、参列の町会関係者、各団体、個人の紹介を行い、最後にパワーポイントで「麻生多摩美の森の会 10 年の歩み」を紹介した。

交流会は複数の行政、町会関係者、7 団体、個人が一同に会するのは初めてのことであり、予定を 2 時間オーバーする盛り上がりで、この事業の 2 番目の目的である地域コミュニティの充実に十分寄与したと思う。

この事業の最後の締めくくりは、3 月 27 日に「平成 24 年度 かわさき市民公益活動助成金事業実績報告書」を提出。4 月 14 日、実績報告書の報告会に出席し報告。4 月 17 日、「かわさき市民公益活動助成金確定通知書」を受け取りすべて終了した。

10 周年記念誌の配布先は 4 月末現在で、町会関係 95 部、当会会員を含めた各団体 87 部、行政関係 38 部、学校関係 18 部、お世話になった個人 18 部、計 256 部となっている。

■ 二つのフォーラムの報告

副会長 中谷 一郎

◇ 2012 年度 花と緑の交流会

平成 25 年 1 月 26 日 (土) 11 時～16 時、川崎市高津市民館 12 階の大ホールと大会議室の 2 室を使用し開催されました。主催 (財) 川崎市公園緑地協会、共催川崎市、企画運営は花と緑の交流会実行委員会、多摩美の森の会からは間野会長が実行副委員長になっています。当日は延べ参加人数 800 人、出展団体 51 で、会場の大ホールと大会議室が同じ階にあるため、来られた人が両方とも効率よく回ることができ、どちらも盛況でした、

大ホールでは環境局緑政部鈴木部長の挨拶のあと、高津中学校吹奏学部の演奏があり、大変質が高く迫力ある演奏でしたが、時間が短かったのが残念で、再度聞きたいものです。

次に柳生博氏の講演。氏は茨城県出身ですが、先祖は柳生の里だそうで、「今日あるのは先人の野良仕事のおかげ。野良仕事の文字は、の(野)をよ(良)くする仕事」という話は、川崎近隣の森で汗を流す我々の心に真直ぐに響くものと感じました

その後、2 団体、生田根岸古墳の杜保全会、梶が谷こぶし公園管理運営協議会の発表があり、大会議室では区ごとにパネル展示がされ、堆肥や花の種の配布は人気で、すぐになくなりました。

関係者の皆様ご苦労さまでした。

◇ 2013 里山フォーラム in 麻生

平成 25 年 3 月 9 日 (土) 10 時～16 時、麻生市民館大会議室に 200 名余の方々が集まり多彩な内容で開催されました。

第 1 部は、阿部市長ご挨拶ののち、おと

絵がたり、高津の民話「げんまん地蔵」、続いて小学校の里山学習の報告です。栗木台小からは 5 年生担当の先生方が野外活動センターでの環境学習「里山再発見」などを報告。金程小 5、6 年生の児童は「育てたよ！私たちの万福寺人参」、長沢小 4 年生は「発見！私たちの長沢」、東柿生小 6 年生は「早野の里山の歴史」劇について報告、いずれも素晴らしい発表でした。

第 2 部は、おいしい地場産ランチのあと、声楽家宗いずみさんの素晴らしい歌。パネルディスカッションは堂前雅史・木村博彦・海野芳彦・石井よし子の 4 氏による「いのちを見つめて一足元からの生物多様性」。トークリレーは各団体がパネルの前で活動報告、最後に「わたしのまちのホッとする風景写真展」表彰式。交流会は地元農産物試食・紹介があり、楽しく過ごしました。

●高橋 英さん『川崎の大地に生きる植物』が発刊され、好評です

植物観察会や西生田小 3、5 年生の野外学習でお世話になっている自然観察指導員高橋英さんの『川崎の大地に生きる植物』が 4 月に (社) 農文協から発行 (150 頁、1,575 円)。副題が「いのちの不思議と人とのかかわり」で、多摩美の森にある多くの草木についても、巧妙な生きる戦略や鳥虫との共生の姿、文化とのかかわりが興味深く解説されています。

1 頁に 1 種類の読み切りですが、登場植物は約 200 種。「読んで癒され、人に話したくなる植物物語」との読後感想もあり、売行き良好で、書店では品薄状態。管理棟に 1 冊あり、読むことができます。

(木村記)



■春の自然観察会—大和市「泉の森」

中村 浩

3月16日(土)、会員9名、会員予定者1名が参加して、植物観察・里山管理の見学会を行った。「泉の森」は42haの中に、雑木林、湿生植物園、木製斜張橋と水車小屋、郷土民家園、キャンプ場、自然観察センターで構成されている。ここでは、自然案内、泉の森ガイド、野鳥、環境管理、柳と遊そぼう引地川、植物調査、ホテル環境復元実行委員会などの多くのボランティアグループが活動し園を支えている。

当日は自然観察センター職員の秋山氏が案内してくれて、たいへん有意義な1日となった。園内には約450種の植物、約80種の鳥類が年間を通じて観られるとのこと。職員といろいろなボランティアが活動しているためか、レッドデータブックと園内の動植物の状況が良く調査されていた。

園の周辺には住宅地、国道などがあり、強風により高木が倒れて被害が出たため、それらに接する区域は低木へ移行中とのこと。

皆伐エリアでは、萌芽更新の状況を見学できた。コナラは15年以上、クヌギは25年以上では萌芽更新率が著しく低下する、また人力で伐採を行う場合は、大木になる前に伐採しないと手に負えなくなるとのことであった。

苦勞しているのは、地権者が大和市・国(防衛省厚木飛行場の緩衝地)・一般個人から成るが、地権者によって樹木の伐採を一切許可しない方もいること。

山野草のエリアでは、カタクリの花が咲いており、年によっては小規模ながらの群生も見られる、一部エリアに、冬虫夏草の密度が高い所もあるとのことであった。

環境復元として、沼沢地・水田に自生していたタコノアシが絶えたので、他所から種を持ってきて蒔いたらごく一部で再生に成功したこと、近年湧水量の減少などにより源氏ボタルの数が少なくなっているため、同じ水系の他の場所からホテルを持って来て再生を図っているなどの取組みも聞くことができた。



●今後の活動予定 副会長 中谷 一郎

2013年度の初会報です、多摩美の森には近隣の保育園の子どもたちが毎日遊びに来ます。広場で、土や石、草に触り、ワイワイと森の匂いを楽しんでいます。昼時には藤棚の下で近隣の方々が食事をしながら樹木の観察をされています、さらに気楽に来られる里山風になるよう、地道に楽しく汗を流しましょう。

今後の活動予定は次の通りです。

- 6月 1日(土) サトイモの植付け、樹木の手入れ
- 6月 5日(水) 西生田小3年生、春の多摩美の森の観察(多摩美の森を知ろう)
- 6月16日(日) 樹木の手入れ、草刈り、清掃
- 7月 6日(土) 下草刈り、畑の草取り、清掃
- 7月21日(日) サトイモ畑の土寄せ、枯れ枝の処理
- 8月 3日(土) 畑の手入れ、草刈り、夏の星空の観測会(予定)
- 8月18日(日) サトイモ畑の水やり、草刈り、のらぼう菜の播種
- 9月 7日(土) 西生田小総合学習の準備、草刈り
- 9月15日(日) 畑の整備、草刈り、清掃
この間補助作業日は第2、第4水曜日です。
6月～9月の作業時間は9～11時です。

★**会員募集中です** 一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費1,000円。

●麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
<http://www.city.kawasaki.jp/asao/page/0000028128.html>

◆**皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。**

<問合せ・連絡先>

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com